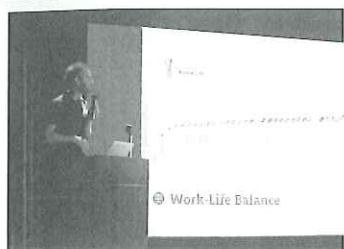


## ワークライフバランスを考える 日本ヒーブ協議会・千代田区共催

一般社団法人日本ヒーブ協議会は、去る九月二十日、千代田区日比谷コンベンションホールで千代田区男女共同参画社会推進事業との共催で「働きたい・子育てしたい男女のワーク&ライフ」をテーマにセミナーを行った。

第一部では「デンマークのワークライフバランス」をテーマに日本コロンビウム協会代表イェンス・イェンセン氏が基調講演を行った。イェンセン氏は、日本企業や外資系企業、デンマーク大使館などで勤務した経験があり、上司と相談して自分のや



デンマークと日本の違いを語る

りたいことや育児などの両立のために仕事時間を短縮するなどしてきた体験を語り、日本人とデンマーク人の働き方の違いを提示した。

積水化学工業㈱CSR部人事

## 前消費者庁長官阿南さんお疲れ様 新たな活躍を期待する会開く

消費者団体から初めて消費者庁長官になった阿南久さんが、八月で二年間の任期を全うしたが、去る九月五日に四ツ谷プラザエフで「阿南久さんの新たな活躍を期待する会」を出身団体である一般社団法人全国消費者団体連絡会を中心に開いた。

消費者関連の様々な分野の人が参集したが、阿南さんに代わって就任した板東久美子消費者庁長官も駆けつけた。

阿南さんは、消費者庁長官として子供を事故から守るプロジェクトで、シンボルキャラクター

グループ担当部長黒田亜希子氏は、「女性活躍とワークライフバランスから始めるダイバーシティ推進」をテーマにいかに女性が会社に定着し、活躍できるかを模索し、様々なアプローチをしてきた体験を語った。

パネルディスカッションでは「これからの働き方を考える」男性の育児休業・女性のキャリア」をテーマに討論した。



挨拶をする阿南さん

の「アブナイカモ」とそのテーマソング及び踊りを作成し、各地で披露したり、地方消費者庁活性化基金となる交付金を当初予算ベースで昨年度の五億円から三十億円へと大幅に措置。

計四十六の地方公共団体の首長たちと面談した他、計七十七回にわたる講演やパネリストとしての説明を行うなど精力的に活動してきた。

## 生活設計ができない大学生も 金融教育リテラシーフォーラム

金融リテラシー教育推進委員会は、去る九月二十九日、千代田区丸ビルコンファレンススクエアで、金融教育リテラシーフォーラム「大学生への金融リテラシー教育の必要性と課題」を開催した。

米国証券業金融市場協会のメラニー・モーター氏が「米国の事例に見る大学生に対する金融教育の取り組み」と題して基調講演を行ったが、「アメリカ人の五六％が緊急時の積み立てをせず、三九％は老後の貯蓄以外の貯蓄がない。大学生は平均約二百八十七万円の学生ローンの借り入れがあり、社会人になってもその返済に追われ、生活設計にも影響している」と述べ、金融教育の必要性を訴えた。

横浜国立大学の西村隆男氏は

阿南さんは、「私が地方に行っても必ずその地で活動している消費者団体の方に声を掛けてもらい応援していただいたことに感謝している」と述べた。

全国の大学の金融リテラシー教育のニーズについて調査したが、大学生は様々な金融リテラシー教育が必要だという回答が多かったと報告した。

博報堂ブランドデザイン若者研究所の原田曜平リーダーは最近の若者を、長引く不況とケータイ化で「スモールライフ」を送るようになってきているが、将来の不安がある中で現状には案外満足しているとも分析した。



米国の現状を語るモーター氏